

【報告】

一橋大学附属図書館と中国人民大学図書館との交流協定の締結及び事前訪問調査報告

小陳左和子（学術情報課）

大城綾子（学術情報課図書情報係）

柴田育子（学術情報課雑誌情報係）

石山夕記（学術サービス課利用者サービス係）

菅原光（学術サービス課レファレンス係）

以上、一橋大学学術・図書部

1. はじめに

一橋大学附属図書館（以下「当館」という。）では、2012年度に中国人民大学図書館と「一橋大学附属図書館と中国人民大学図書館との間における図書館交流に関する協定書」（以下「交流協定」という。）を締結した。

交流協定の締結にあたっては、2011年度末に当館から江夏由樹附属図書館長及び学術・図書部職員4名が、今後の図書館間交流の可能性を確認する打合せ及び中国の図書館活動に関する事前調査を行うために中国人民大学図書館を訪問した。

本稿では、交流協定の紹介と、訪問調査の報告を行うこととする。

2. 中国人民大学図書館との交流協定について

2.1. 交流協定の締結に至る経緯

中国人民大学（Renmin University of China）¹は、人文社会科学を主体とする研究大学で、中華人民共和国国家重点大学²の一つに指定されている。日本における社会科学の研究総合大学である一橋大学（以下「本学」という。）とは、2004年度に大学間の学術交流協定、2009年度に学生交流協定、さらに2006年度には法学研究科による部局間学術交流協定を締結し³、研究者や学生の交流を活発に行っている。また、本学では、「アジアの教育、研究機関等との教育面、研究面における交流を支援することにより、広い見識を持ち、国際的に通用するにたりうる人材育成と実践的研究に貢献すること。また、情報発信や広義の交流活動を通じて、日中間の発展に寄与すること。」を目的として、2010年に中国交流センターを開設し、現地オフィスを中国人民大学のキャンパス内に置いている⁴。

一方、当館では近年、所蔵資料や本学研究成果のデジタル化と情報発信、電子的資料の整備を重点課題の一つとしており、それらに積極的に取り組んでいる中国の大学図書館の活動に注目していたところである。

このような背景から、学術研究や教育面での交流のために双方の研究者や学生が図書館を活用すること、さらに、図書館間で双方の活動・サービスに関する情報交換を行うことが必要であると考えた。そこで、本学の中国交流センターの仲介により、平成24年3月に当館から中国人民大学図書館へ出向き、交流協定締結の可能性について図書館長同士で協議する場を設けることとした。この場に於いて、当館からの趣旨と意義について両館長間で合意が得られたため、その後の数回のやりとりにより協定書の文面を確定させ、2012年11月に本学に於いて交流協定調印式を行うこととした。

2.2. 交流協定の内容

次に、両館協議の上で確定した協定書の文面を示す。

一橋大学附属図書館と中国人民大学図書館との間における 図書館交流に関する協定書

一橋大学附属図書館と中国人民大学図書館とは、平等互惠の精神に基づき、両館間の学術協力および人物交流が、両館間における図書館事業の発展と相互理解に寄与するものと確信し、以下の諸事項について合意に達した。

1 交流の内容

(1) 図書館利用

両大学に所属する教職員および学生が、相互の図書館施設および資料を利用できるようにする。

(2) 刊行物の交換

両大学が刊行する紀要等の学術出版物を交換する。

(3) 図書館情報サービスの高度化に関する情報交換

資料のデジタル化等、図書館情報サービスの実務的な知識および技術に関する情報交換を行う。

(4) 図書館職員の交流

両館に所属する職員を相互に派遣し、情報交換および交流を行う。

(5) その他両館が合意した図書館間交流

2 財政

両館は、本協定の実施にあたり、財政上の責任を負う義務はないものとする。

3 協定の改訂

本協定は、必要に応じて、双方の協議と合意を経て修正、改訂することができる。

4 協定の効力

本協定は両館の代表が調印した日に発効する。協定の有効期間は5年間とし、5年毎に自動的に更新されるものとする。ただし、更新の6ヶ月前に、文書により協定の解消を告知した場合、更新は行われぬものとする。

この協定書は、日本語および中国語により各2通を作成し、双方の文書が同等の効力を有するものとする。両当事者はその各1通を保有する。

2012年11月7日

2012年11月7日

一橋大学附属図書館長
江夏 由樹
(署名)

中国人民大学図書館長
劉 大椿
(署名)

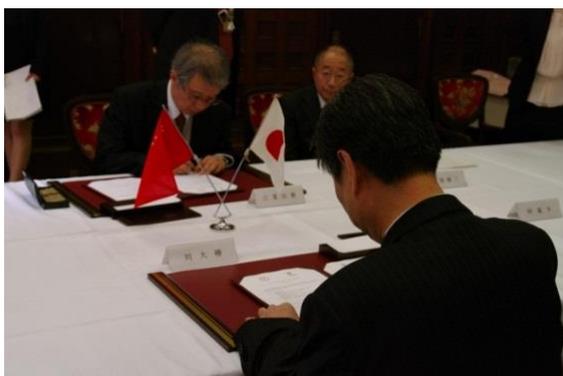
2.3. 交流協定調印式について

2012年11月7日(水)、中国人民大学図書館から次の5名が来日し、本学に於いて両図書館長による調印式を執り行い、交流協定を締結した。

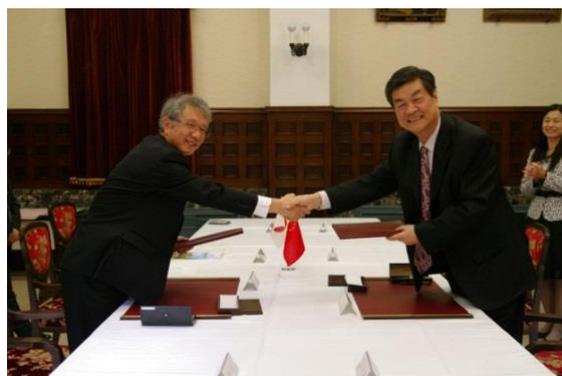
- ・中国人民大学図書館 館長 刘 大椿 (Liu Dachun)
- ・中国人民大学図書館 副館長 宋 姬芳 (Song Jifang)
- ・中国人民大学図書館 副館長 王 清源 (Wang Qingyuan)
- ・中国人民大学図書館 館長办公室 副主任 储 继华 (Chu Jihua)
- ・中国人民大学図書館 報刊閱覽部 副主任 阿童木 (Atongmu)

当日の日程は次のとおりである。

10:30～11:15	挨拶、一橋大学紹介
11:15～11:45	交流協定調印式
11:45～12:45	学長、副学長(国際交流担当)との懇談
13:30～16:00	キャンパス案内、附属図書館及び社会科学古典資料センター見学
16:00～17:30	図書館職員との意見交換



【写真1】署名を行う両図書館長



【写真2】協定書を交換する両図書館長

図書館職員との意見交換では、当館の概要について紹介した上で、双方の図書館活動について意見を交換した。特に、研究・教育のための蔵書や電子リソースの整備、蔵書や大学の研究・教育成果の電子化と発信、また、そのための研究者との連携といった事項について互に関心を寄せており、今後の交流により情報交換を行っていく必要性を実感した。

また、中国人民大学図書館の一行は今回の日本滞在中に、国立国会図書館、東京大学附属図書館、京都大学附属図書館及び大阪大学附属図書館を当館館長とともに訪問し、図書館見学及び意見交換を行った。

2.4. 今後の展開

今後は、交流協定に明記した「交流の内容」、特に「(1)図書館利用」(両大学所属の教職員・学生の相互図書館利用)に係る詳細な運用方法を両館協議の上で定め、利用者へ案内を行うこととしている。また、職員の交流による情報・意見交換も具体的に進めていく。

交流協定締結後の第一弾として、これらの打合せ及び訪問調査のため、2013年3月に当館職員3名を中国人民大学図書館に派遣する予定である。

3. 中国の大学図書館活動の訪問調査について

3.1. 訪問調査の概要

前述のとおり、平成24年3月、図書館間交流の可能性の確認と中国の図書館活動に関する事前調査を目的として、次の5名が中国人民大学図書館等を訪問した(所属・職名は調査当時)。

- ・ 一橋大学附属図書館長 江夏 由樹
- ・ 一橋大学学術・図書部学術情報課主査(雑誌情報主担当) 大城 綾子

- ・ 一橋大学学術・図書館学術情報課（雑誌情報担当） 柴田 育子
- ・ 一橋大学学術・図書館学術情報課（利用者サービス担当） 石山 夕記
- ・ 一橋大学学術・図書館学術システム課（図書館システム担当） 菅原 光

訪問の日程は次のとおりである。

2012年 3月1日（木）	9:30～15:30	中国人民大学図書館訪問（館内見学，両図書館長の 会談，実務担当者間の意見交換）
3月2日（金）	9:30～11:30	北京大学図書館訪問（館内見学，意見交換）
	14:30～17:00	清華大学図書館訪問（館内見学，意見交換）

訪問した3大学は、北京中心部の北西郊外にあたる北京市海淀区に集中して位置している。本学の中国交流センターが中国人民大学キャンパス内のビルに現地オフィスを構えていることもあり、その近隣であり国家重点大学として名高い北京大学及び清華大学への訪問も可能となった。

今回の訪問の主な目的は、中国人民大学図書館へ図書館間交流協定締結について打診し、その実現に向けて可能性を検討することであったが、中国の主要な大学図書館を見学できる好機であるため、資料収集及び管理、図書館サービスの実態等について調査を行うこととした。特に近年、所蔵資料の電子化や、電子ジャーナルをはじめとした電子的資料の整備を意欲的に行っている中国の大学図書館において、その取り組みを調査することに焦点をあてた。

短い滞在時間にも関わらず、どの図書館でも館内見学だけでなく質疑応答に時間を割いて、我々の質問にも丁寧な回答をいただいた。以下、各大学で得られた情報について、中国における学習環境の電子化、所蔵資料の電子化、電子的資料の導入状況及び図書館コンソーシアム形成の状況に分けて報告する。

3.2. 訪問した大学図書館の概要

今回訪問した3大学及び図書館の概要は、次のとおりである（平成24年3月時点調査）。

	図書館 創立年	学生数	教員数	図書館 職員数	蔵書数	大学の 特徴
中国人民大学 図書館	1950	24,000	1,800	150	350万	人文社会科学を中心とした 国家重点大学 (22 学院・14 研究機構)
北京大学 図書館	1902	37,000	1,600	170	800万	中国トップクラス ⁵ の総合 大学 国家重点大学
清華大学 図書館	1912	40,000	3,100	150	420万	総合大学 (16 学院・56 系) 国家重点大学
〔参考〕 一橋大学 附属図書館	1885	6,500	400	50	186万	社会科学の研究総合大学 (4 学部・7 研究科等・ 1 研究所)

3.3. 訪問調査内容

3.3.1. 学習環境の電子化

中国人民大学を中心とした訪問各大学図書館における学習環境の電子的整備状況について報告する。

まず目についたものとして、大小様々なタイプのデジタル・サイネージが挙げられる。総合カウンターの上に設置された大画面型のもの（写真3）、1行のメッセージが右から左に流れて表示されるもの、各階の階段・エスカレータ・エレベータ横に設置された小型画面のものなどが使われていた。表示内容としては、開館時間、フロア案内、利用案内、新しいサービスの告知などである（写真4,5）。中国人民大学図書館では、我々の訪問に対する歓迎の言葉の掲示にも利用されていた（写真3）。



【写真3】総合カウンター上の大型画面（人民大学）



【写真4】利用規則を表示した画面（北京大学）



【写真5】案内図や開館時間を表示した画面（清華大学）

電子新聞（写真6）がよく利用されていたことも印象的であった。新聞室に2台設置され、複数の新聞をまとめて1台で読むことができる。また、各階や各部屋には必ず自動貸出・返却装置が設置されていた（写真7）。

中国人民大学図書館内には2,100台の端末があり、無線LANが完備されている。インフォメーション・コモنز（写真8）には各種アプリケーションソフトの利用できる端末が26台あり、一回につき2時間まで利用可能である。入口付近のモニターで、座席の利用状況を確認することができる（写真9）。館内でインターネットを使用する場合は大学から課金されるため、学生証のプリペイド式電子マネー機能を利用して支払いをしている。また、インフォメーション・コモنزでは、小声程度の話し合いは許容されている。



【写真6】電子新聞（人民大学）



【写真7】自動貸出・返却装置（人民大学）



【写真8】インフォメーション・コモنز（人民大学）

マルチメディアホールも、複数のタイプの部屋が用意されていた。最大の部屋では、3つのモニターと100席ほどの座り心地のよい椅子が完備され、映画や演奏会のプログラムが常時上映されており、空き時間に予約不要で利用することができる（写真10）。中規模の部屋では、大型テレビやソファが設置されており、十数人程度での利用が可能である（写真11）。小規模の部屋では、テレビとソファが設置された2~3人用のブースがいくつも並んでいた。ここでも、入り口のモニターで座席の利用状況を確認することができる。



【写真9】座席利用状況確認画面（人民大学）



【写真10】マルチメディアホール（人民大学）



【写真11】中規模のマルチメディアルーム（人民大学）



【写真 12】 iPad 等の各種
タブレット端末 (北京大学)



【写真 13】 Kindle 等の電子
ブックリーダー (北京大学)



【写真 14】 総合案内画面
(清華大学)

その他、中国人民大学以外の図書館では、グループあるいは個人用学習室をオンラインで予約することが出来るシステムや、貸出用の iPad (写真 12)・電子ブックリーダー (写真 13) の利用が順調である様子、玄関に置かれた総合案内端末 (写真 14) などを見学することができた。

学習環境の電子化について、先進度では中国人民大学図書館と当館との間にそれほど大きな開きは見られなかった。ただし、デジタル・サイネージやマルチメディアホールなどから見てとれるように、その多様性については学ぶべき点が多い。中国人民大学では、広大な構内に大半の学生が居住している。そのため図書館は、学習支援という機能だけではなく、生活面や余暇時間も含めた学生の 24 時間を、より充実したものにするための工夫をすべきであると考えられており、それがサービスや空間の多様性につながっている。

また、場所に依じて異なるタイプのデジタル・サイネージを設置している点や、エレベーター、エスカレーター、正面玄関などの必ず視界に入る場所に設置している点、またデジタル・サイネージに来客への歓迎の辞を掲載するなど、効果的な使い方をしている様子も非常に参考になった。

敷地の広大さや建物の巨大さなど、人的資源・土地資源・資金面において規模の違いばかりに目を奪われがちだが、サービスの質に対する姿勢や取り組みから学び、交流協定を通じて、双方にとって利するところが多い新しいサービスを創り出していくことが、今後の課題であると感じた。

3.3.2. 所蔵資料の電子化

中国の大学図書館における学術情報の電子化について、これまでの経緯と現況を概観した上で、中国人民大学図書館における状況を報告する。

まず、中国における学術情報の電子化について、その特徴を三点にまとめて説明する。一つ目として挙げられるのが、資料の電子的公開が政府の財政的支出によるプロジェクトに基づいて計画的・統合的に行われているということである。例えば、ある特定の5か年で、大学図書館で構成するコンソーシアムを作る、次の5か年では電子化のプロジェクトをより具体化・強化するなどといった、国家政策の中で大学図書館は学術情報の電子化を進めているということである。

二つ目として挙げられるのが、中国では、地域の公共図書館でも資料の電子化を積極的に進めているという点である。北京や上海といった大都市の公共図書館の事例を持って、中国全土の特徴であるとは言い難いが、例えば上海図書館では1996年というかなり早い時期から所蔵資料の電子化に取り組んでおり、所蔵している貴重資料の電子化をほぼ終えてしまっているようである。また、年間500万ページの紙媒体の所蔵資料を電子化しているとのことで、貴重資料だけではなく一般的な所蔵資料も電子化の対象となっている。

三つ目として挙げられるのが、中国における資料の電子化というのは、近年欧米や日本でも取り組んでいる研究成果のオープンアクセス化とは若干性格を異にしており、貴重資料や所蔵資料の電子化をメインに行っていることである。その詳細は後述するが、カレントで発信される大学等研究機関の研究成果は、出版社が電子化し流通する仕組みがあるため、大学図書館でも同様の作業を進めるのではなく、むしろ、自分の図書館が持っている貴重資料や他館と重複していない資料を電子化することに積極的なようだった。

次に大学図書館に焦点を当てて、政府による計画の下、中国の大学図書館がどのように資料の電子化に取り組んできたのかを簡単に整理しておく。

まず1998年に、大学間のコンソーシアムであるCALIS (China Academic Library and Information System : 中国高等教育文献保障系統)⁶が誕生した。CALISの役割としては、中国全土の500以上の図書館総合目録の管理やILLを可能にするシステムの構築のほか、電子的資料のコンソーシアム契約なども担当している。これらのほかに電子図書館機能の整備も役割として含まれており、2001年頃からアメリカ・インドとの国際的な共同電子化プロジェクトであるCADAL (China-America Digital Academic Library : 中英文图书数字化国际合作计划)⁷、2004年頃からCALISに参加する大学図書館において、資料の電子化や情報基盤の整備、人材育成等の取り組みを行うCADLIS (China Academic Digital Library and Information System : 中国高等教育数字化图书馆) というプロジェクトが進められている。従って、電子化の実務を行うのは各大学であるが、中国全土の大学図書館における資料電

子化の方向付けを行っているのが、この CALIS ということになるであろう。

先にも触れたが、中国の大学における資料の電子化は 2001 年頃から本格化しており、その先例が CADAL である。別名、China-US Million Book Digital Library Project ともいわれ、アメリカ、インド、エジプトとの共同電子化プロジェクトを発足した。中国からは今回訪問した北京大学や清華大学を始め、16 機関がこのプロジェクトに参加し、1919 年以降の比較的新しい図書や学位論文、古籍と呼ばれる 1911 年以前に出版された図書の電子化を行った。その成果が現在 CADAL のウェブサイトで公開されている。

CADAL が中国の中でも少数の大規模大学図書館の参加に留まったのに対し、CADLIS は、中国全土の大学における資料の電子化を総合的に推進していく仕組みとなっている。「総合的に」とは、単に各館が資料の電子化を行うだけではなく、電子的公開のための情報基盤の整備やメタデータの規格整備、資料の電子化を担う人材育成などが含まれている。

さて、ここからは中国人民大学図書館における資料の電子化について報告する。

まず、電子化の対象とする資料としては、破損によって紙媒体の資料の利用が難しいものや中国の大学図書館全体で所蔵が少ないものが優先的に電子化されている。つまり、各大学は自館の特色のある資料を電子化するようにしているので、他大学図書館との重複はほとんどないとのことであった。電子化した画像の公開方法は、学内限定公開であれば商業目的ではないとみなされ、出版社や著者等の著作権者に許可を取らずに学内限定の利用として提供している。一方、1949 年以前の資料など、電子化した資料で外部へ公開するものは、前述の CADAL のシステムを利用している。

電子情報は、tiff か djvu の形式で保存しており、PDF はほとんど利用していないとのことだった。電子化された情報の管理・保存については、中国国家図書館の CTI、清華大学の「同方」という 2 つのシステムが中国では多く使われている。CALIS は全大学の統合サイトであり、そのサーバは北京大学に設置されている。一方、CADAL はメンバー館だけが利用でき、そのサーバは浙江大学で管理されている。

中国人民大学図書館では、所蔵資料の電子化を進めることで利用者の便を高めていこうとする姿勢が伺えた。また他大学図書館と効率よく資料の電子化を進めることで、より広範囲の電子データを作成するというネットワークや協力関係は、大規模な資料の電子化をする上で効率的であり、今後日本の大学図書館が資料の電子化を積極的に進めることになった際に参考になると思われる。

3.3.3. 電子的資料の導入状況

中国人民大学を中心とした訪問各大学図書館における電子的資料の導入状況について報告する。

日本の多くの大学図書館と同じく中国人民大学図書館でも、図書館資料の収集の対象は冊子から電子へ移行が進み、全体の予算に占めるデータベース等電子的資料の割合は次第に大きくなってきている。この現象は、北京大学、清華大学でも同様で、特に理系分野が主流の清華大学では、図書購入予算のうち約半分が電子的資料の購入にあてられているとのことであった。

資料の選定方法として、中国人民大学図書館では、電子を購入したタイトルは冊子を中止することでその移行を推進している。また、分野による区別（国家重点学科に指定されている分野⁸について冊子を残し、それ以外の分野は電子ジャーナルのみの購読とする方法）や、刊行国による区別（国外の資料は電子のみ、国内の資料は冊子または電子・冊子の両方を購読するという方法）で、全体の支払額を抑える図書館もあった。国家の高等教育政策で重点学科が指定される中国では、分野による購入資料の優先順位がより明確となっているような印象を受けた。

中国では、国内電子ジャーナルの価格は安定しているが、海外電子ジャーナルの価格は上昇が激しいとのことで、これは日本の大学図書館が抱える問題と同様である。電子ジャーナルは、必ずコンソーシアム経由で契約することで値上りを抑制しているが、人民元高で価格上昇が吸収されている現在の状況が少しでも変われば、調整が避けられない状況にある。清華大学では、電子ジャーナルの利用実績が少なく、契約額をILL複写料金に換算した場合に割高であれば、購読を中止する方法で調整を行っているとのことだった。

電子ジャーナルのバックファイルは、予算に限界のある個々の大学での購入が困難なため、日本ではその整備が遅れているが、中国では国レベルでの購入が積極的に進められており、ナショナル・サイト・ライセンスとして整備されたバックファイルもある。中国人民大学図書館でも、国家プロジェクトの資金も使用して中国国内出版社のバックファイルを1990年頃から複数年に分けて購入するなど意欲的に整備を進めている。

次に、購入後の電子的資料の提供方法について紹介する。中国人民大学図書館では、電子的資料の提供ツールとして、SerialsSolutions社の360サーチを導入しており、大学で利用可能な英文のデータベースについて統合検索が可能となっている。また、電子的資料が新たに導入された折には、学科ごとに図書館職員を割り当てた「学科館員」によって所属

教員等に紹介され、利用方法等の説明が行われるという制度がとられている。

このように、今回訪問した大学と本学を比較すると、電子的資料の導入状況において分野による速度や、背景となる国家政策による方針や活動における違いはあるものの、選定方法や価格、提供方法など本学が抱える問題の対策について参考になる事例が多かった。今後も情報交換を行うことで、電子ジャーナルやデータベース等を取り巻く情勢に協力して対応していきたい。

3.3.4. 図書館コンソーシアム形成の状況

中国には前述の CALIS という図書館コンソーシアムがあり、図書館間の ILL 等のさまざまなサービスを行っている。今回、中国人民大学図書館及び北京大学図書館において調査した CALIS の現況について報告する。

CALIS は、1998 年に“211 工程”(211 プロジェクト)⁹の一環として立ち上げられ、現在第 3 期に入っている¹⁰。CALIS は北京大学に中心事務所を置き、また、全国に 7 つの地域センターがある。中国人民大学は、北京の地域センター BALIS (Beijing Academic Library and Information System: 北京地区高校图书馆文献資源保障体系)¹¹の管理業務を行っている。管理業務とは主に、新しい電子的資料の広報や、北京地域の大学の購入希望をまとめて DRAA (Digital Resource Acquisition Alliance of Chinese Academic Libraries: 高校图书馆数字资源采购联盟)¹²に報告するなどの業務である。

電子ジャーナルのコンソーシアムとしての交渉は、以前は CALIS が行っていたが、CALIS 自体がプロジェクトの一環であり独立した機関の業務ではではないことから、交渉専門機能をもつ DRAA が 2011 年に発足し、その役割を担っている。DRAA は、CALIS の交渉の機能を移行する形で国内 28 の主要大学が共同して発足した。DRAA の委員会は 23 人で構成され、約 400 の大学図書館がコンソーシアムに参加しているとのことである。専任職員はおらず、所属している図書館の担当業務との兼務で行っている様子である。コンソーシアムの形としてはオプトイン型で、交渉合意後の契約、支払いは各大学が行っている。目下の懸念は日本同様に、価格高騰であるとのことである。

このように、中国の図書館コンソーシアム CALIS はそのサービスを拡大し、また出版社交渉強化のために DRAA を立ち上げて中国国内の図書館で相互に協力している様子がうかがえた。

4. おわりに

中国人民大学図書館と当館との交流は、緒に就いたばかりである。2.4項で述べたように、相互の図書館利用について詳細を協議した上で運用方針を決定し、それぞれの所属研究者・学生に周知していく必要がある。また、これまでの両館職員間の意見交換において互いの活動概要を知ることができたが、国は違えども共通の課題があると実感し、かつ、双方がそれぞれ互いの現場でさらに調査し考察したいテーマが出てきている。

今回の交流協定締結を契機として、今後両館の職員交流による情報・意見交換を継続的に行い、双方の図書館活動の発展に活かしていきたい。

-
- ¹ 中国人民大学. ウェブサイト. (オンライン), <http://www.ruc.edu.cn/>, (参照 2013-1-11).
 - ² 人材の育成を急ぎ、国家経済建設の要請に応えるべく、1954年から高等教育部がモデル校の指導・管理、教育実践活動を一般校へ普及させる試み。当初は、中国人民大学・北京大学・清華大学を重点大学とし、1981年までに全国で96校が指定された。(上原秀樹[ほか]編. 現代アジア事典. 文眞堂, 2009, p.476. (ISBN 978-4830946493) による。)
 - ³ 一橋大学国際化推進本部. 「交流協定」ウェブサイト. (オンライン), <http://www.hit-u.ac.jp/gih/ja/agreements/>, (参照 2013-1-11).
 - ⁴ 一橋大学中国交流センター. ウェブサイト. (オンライン), <http://www.hit-u.ac.jp/china/ja/>, (参照 2013-1-11).
 - ⁵ イギリスの高等教育専門誌“Times Higher Education”が発表した「世界大学ランキング2012-2013」では、北京大学が46位で中国本土ではトップである。なお、清華大学は52位で中国2位である。
Times Higher Education's 2012-2013 World University Rankings. (online), <http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/2012-13/world-ranking>, (accessed 2013-01-31).
 - ⁶ CALIS (China Academic Library and Information System). CALIS 紹介. (オンライン), http://project.calis.edu.cn/calisNew/calis_index.asp?fid=1&class=1, (参照 2012-12-28).
また、CALIS については以下の文献も参照されたい。
村上かおり. 中国の図書館ネットワーク：CALIS の現状. カレントアウェアネス・ポータル. (オンライン), <http://current.ndl.go.jp/ca1443>, (参照 2012-12-28).
呑海沙織. 中国における学術図書館コンソーシアム. 情報の科学と技術. 2002, vol.52, no.5, p.272-277. (オンライン), <http://ci.nii.ac.jp/naid/110002829063>, (参照 2013-01-31).
 - ⁷ CADAL. ウェブサイト. (オンライン), <http://www.cadal.cn/>, (参照 2013-01-31).
 - ⁸ 中国政府(教育部)が一部の大学・学科に重点的に投資し、優先的に発展させて内外での先端的な大学・学会に引き上げるために財政的支援を行う政策。1998年に開始したが、それ以前にも国家重点学科の選定は3回行われている。(上原秀樹[ほか]編. 現代アジア事典. 文眞堂, 2009, p.390. (ISBN 978-4830946493) による。)
 - ⁹ 21世紀に向けて、中国政府(教育部)が100余の大学を重点的に発展させる目的で策定したプロジェクト。1993年に構想され、正式開始は94年。10年以上にわたって一部の大学と学科における優秀な人材の育成と、国家経済建設ないし社会発展の中で生まれる重要な科学技術問題を解決できる基盤の構築を目指す。(上原秀樹[ほか]編. 現代アジア事典. 文眞堂, 2009, p.878. (ISBN 978-4830946493) による。)
 - ¹⁰ 中华人民共和国教育部. 教育部办公厅关于成立高等教育文献保障体系三期建设项目管

理委员会的通知. 2010. (オンライン), http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s3886/201010/xxgk_110214.html, (参照 2013-01-31).

¹¹ BALIS 北京地区高校图书馆文献资源保障体系 : Beijing Academic Library and Information System. ウェブサイト. (オンライン), <http://202.112.118.46/index.html>, (参照 2013-01-31).

¹² DRAA 高校图书馆数字资源采购联盟 : Digital Resource Acquisition Alliance of Chinese Academic Libraries. ウェブサイト. (オンライン), <http://www.libconsortia.edu.cn/index.action>, (参照 2013-01-31).

[Report]

Report of the Partnership Agreements between Renmin University of China Library and Hitotsubashi University Library, and the Prior Consultation Visit

Kojin, Sawako.

Department of Libraries and Information, Library Affairs Division, Hitotsubashi University

Oshiro, Ayako.

Acquisition Section, Department of Libraries and Information, Library Affairs Division,
Hitotsubashi University

Shibata, Yasuko.

Serials Section, Department of Libraries and Information, Library Affairs
Division, Hitotsubashi University

Ishiyama, Yuki.

Circulation Section, Academic Services Section, Library Affairs Division, Hitotsubashi
University

Sugawara, Koh.

Reference Service Section, Academic Services Section Library Affairs Division, Hitotsubashi
University